

ール・手形売買市場での運用を増やす仕振りを強めたため、公社債組入れ比率は90.0%(前月90.4%)とさらに低下した。

## 実体経済の動向

### ◇減産強化の動き広がる

(生産—減少)

10月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、前月微増のあと-1.2%と減少した(前年同月比-9.7%)。これは、乗用車等一部では在庫調整の一巡などから増産に転じているものもあるものの、主要業界では需要減退・在庫累増に対処して減産を継続ないし強化(化学、非鉄、窯業・土石等)しているためである。また、製造工業生産予測指数(季節調整済み、前月比)をみても、このような事情を映じ11月-1.3%、12月0%と減少基調を続ける見込みとなっている。

10月の動きを特殊分類別にみると、耐久消費財(乗用車<1,000~1,500cc>、カラーテレビ、電子レンジ等)、資本財輸送機械(船舶、乗用車<1,500cc超>等)が増加を続けたほかは、非耐久消費財(服類、印刷用紙、合成洗剤等)が大幅減少となったのをはじめ、建設資材(棒鋼、セメント、タイル等)、生産財(塩ビ樹脂、伸銅製品、段ボール原紙

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	48年	49年				49年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月	
鉱工業	135.1	132.3	129.5	124.9	123.3	123.7	122.2	
前期(月)比	3.0	2.1	2.1	3.6	3.5	0.3	1.2	
前年同期(月)比	16.2	7.4	1.3	4.7	6.1	6.7	9.7	
投資財	4.7	2.8	0.6	2.6	3.1	1.1	0.6	
資本財	6.0	3.5	1.7	1.2	3.5	1.4	0.4	
同(輸送機械を除く)	8.0	5.5	5.9	3.7	3.4	1.8	0.7	
輸送機械	2.2	0.5	5.7	3.1	4.4	2.0	—	
建設資材	1.5	1.4	6.0	5.7	3.6	1.5	2.8	
消費財	2.1	2.1	1.4	1.6	5.3	2.7	0.5	
耐久消費財	2.0	1.2	5.1	0.8	8.0	5.1	2.3	
非耐久消費財	2.4	2.5	1.6	2.6	2.6	0.9	3.1	
生産財	2.2	1.1	4.0	5.5	3.3	0.4	1.5	

(注) 1. 通産省調べ、49年10月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

等)ともそれぞれ減勢を強め、また一般資本財(トラクター、標準三相モーター、機械プレス等)も引き続き減少した。

(出荷—船舶を除くとかなりの減少)

10月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、+2.1%と増加したが、これは船舶の引渡しが集めたことによるもので、船舶を除けば前月微増(+0.2%)のあと-2.1%の減少となる。

特殊分類別にみると、耐久消費財は、需要持直しと流通在庫調整一巡を背景とした乗用車(1,000~1,500cc)の増勢持続から増加を続け、資本財輸送機械も船舶、乗用車(1,500~2,000cc)の増加を主因に大幅増となったが、一般資本財が、前月著増した圧延機械の反動減のほか量産機械類の流通在庫調整進展などを映じてかなり減少し、また、建設資材も、建設工事の停滞持続(セメント、鉄骨等)や流通在庫調整の進展(棒鋼、アルミサッシ等)などが響いて前月に続きかなり減少した。また、生産財は、一部(肥料、鉛電池等)を除けば、主要業界の減産継続を背景に原材料手当てが慎重化していることから一段と落ち込んだ。

(製品在庫—かなりの増加)

10月の鉱工業生産者製品在庫(速報、季節調整

済み、前月比)は、+2.0%と引き続き増加した。これは、実需減退や流通在庫調整を映じた在庫の積み上がり(非鉄、紙・パルプ、金属製品等)に加え、メーカー出し値の引上げが出荷の減少を拍車し在庫増を招いたこと(化学等)なども響いているとみられる。この間、乗用車は出荷の好調から、繊維、電気機械は減産効果からそれぞれ減少し、在庫調整の進捗を裏付けている。特殊分類別にみると、耐久・非耐久消費財は小幅の増加にとどまった反面、生産財は増勢が強まったほか、一般資本財、建設資材はいずれも大幅に増加した。

この間、生産者製品在庫率(45年=100、季節調整済み)は130.1(前月130.3)とわずかながら低下したが、これは船舶の引渡し集中による出荷増加が大きく響いたため、これを除いてみると依然上昇傾向(船舶を除いた在庫率は9月129.5→10月134.9)を続けている。

なお、日本銀行「主要企業短期経済観測」(11月調査)によれば、このところ製品在庫過剰感が一段と強まり、判断指標の水準は調査開始以来のピークとなった。もっとも、先行き3月にかけては売上げ回復期待に加え減産効果もあって、こう

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	48年		49年				49年		
	10~		1~	4~	7~	8月	9月	10月	
	12月	3月	6月	9月					
鉱工業指数	136.2	130.9	127.0	124.0	124.4	122.6	125.2		
前期(月)比	3.0	-3.9	-3.0	-2.4	-0.6	-1.4	2.1		
前年同期(月)比	15.3	4.2	2.1	6.2	5.7	7.6	8.8		
投資財	4.5	6.0	2.5	4.4	0.4	7.3	10.2		
資本財	5.4	6.9	6.3	4.4	1.2	8.7	14.9		
同(輸送機械を除く)	8.0	6.5	4.4	2.8	3.2	0	-3.7		
輸送機械	2.2	8.0	9.6	6.9	9.9	-23.8	—		
建設資材	2.1	5.6	4.6	3.3	1.1	4.4	3.1		
消費財	3.1	3.4	5.7	2.1	2.3	2.7	0.2		
耐久消費財	2.0	4.8	9.7	5.7	5.1	5.7	1.7		
非耐久消費財	3.8	2.0	2.9	0.5	1.0	0.9	-2.6		
生産財	2.5	3.1	5.2	3.3	0.9	0.2	-2.0		

(注) 1. 通産省調べ、49年10月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	48年(期別)		49年(期別)				49年(月別)		
	12月		3月	6月	9月	8月	9月	10月	
	鉱工業指数	117.0	127.8	148.2	159.7	157.0	159.7	162.9	
前期(月)末比	-0.3	9.2	16.0	7.8	1.9	1.7	2.0		
前年同期(月)末比	1.4	12.3	29.4	36.0	36.0	36.0	39.6		
製品在庫率	87.6	103.4	118.8	130.3	126.2	130.3	130.1		
投資財	8.4	16.4	19.4	12.1	3.8	2.8	3.5		
資本財	13.9	19.2	23.3	13.8	4.5	1.8	3.2		
同(輸送機械を除く)	13.7	16.6	19.8	15.7	8.4	1.0	4.5		
輸送機械	10.8	38.7	37.2	6.7	-10.7	8.0	—		
建設資材	2.6	13.1	14.6	9.0	2.0	3.8	5.0		
消費財	-3.2	4.6	14.7	5.8	0.2	1.9	0.8		
耐久消費財	-4.2	8.9	21.5	7.5	0.2	2.5	0.1		
非耐久消費財	-2.4	1.8	9.7	4.2	-0.5	1.8	0.5		
生産財	-2.8	9.2	15.5	7.1	2.5	0.9	1.5		

(注) 1. 通産省調べ、49年10月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

した過剰感も多少軽くなると見込まれている。

(原材料在庫——9月は小幅の増加)

9月の製造工業原材料在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、前月減少(-0.5%)のあと+0.7%と小幅の増加にとどまった。これは、主要業界の減産継続を映じ原材料消費が減少しているものの、原材料手当ての圧縮により原材料在庫の調整が進捗しているためである。特殊分類別にみると、輸入素原材料(原油、羊毛等)が輸入入着の減少を主因にかなりの減少となり、国産素原材料も増勢が鈍化したが、国産製品原材料(重油、エチレン等)は消費の大幅減少を映じ増加に転じた。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

	49年(期別)			49年(月別)		
	3月	6月	9月	7月	8月	9月
在庫指数	140.9	144.9	146.0	145.7	145.0	146.0
前期(月)末比	6.7	2.8	0.8	0.6	-0.5	0.7
国産分	7.4	1.3	1.1	0	-0.5	1.6
素原材料	1.3	-6.3	4.0	1.2	2.1	0.7
製品原材料	7.8	2.9	1.6	0.3	-0.9	2.2
輸入分	1.8	7.1	2.8	3.3	1.2	-1.6
素原材料	1.9	4.3	3.1	3.9	0.4	-1.2
在庫率指数	111.6	119.0	125.4	119.8	121.2	125.4
国産分	111.8	117.7	124.9	117.7	119.5	124.9
素原材料	90.7	86.2	93.2	87.5	89.4	93.2
製品原材料	116.3	124.4	133.0	124.7	126.4	133.0
輸入分	107.9	118.2	121.9	123.7	124.2	121.9
素原材料	108.5	114.3	116.6	120.1	119.0	116.6

(注) 通産省調べ、49年9月は速報。

(販売業者在庫——8月は減少)

8月の販売業者在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、前月大幅増加(+4.2%)のあと-0.7%と減少した。これは、繊維原料や紙等が需要の大幅減退から、また鋼材は値上げを見越したユーザーの在庫手当て一巡からそれぞれ増加したものの、前月在庫累増をみた機械器具(家電等)がディーラーの仕入れ手控えから大幅に減少したほか、非鉄、織物等の流通在庫調整が引き続き進んでいるためである。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

	48年(期別)	49年(期別)			49年(月別)		
	12月	3月	6月	6月	7月	8月	
総合指数	133.6	138.0	135.9	135.9	141.6	140.6	
前期(月)末比	3.0	3.3	-1.5	-2.2	4.2	-0.7	

(注) 通産省調べ、49年8月は速報。

(設備投資——一般資本財出荷はかなりの減少)

10月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、前月横ばいのあと-3.7%とかなりの減少となった。これは、一部大型機械類(圧延機械等)で前月著増のあと反動減となったことのほか、汎用ないし量産機種(標準モーター、工作機械、油圧ショベル等)の多くでは企業の設備投資計画見直しの動きを映じて流通在庫の調整が一段と進捗したことによるところが大きく、化学機械等の大型機械類や合理化・安全関連の各種機器(工業計器、コンピューターおよびその周辺機器等)の出荷は総じて底堅い動きを続けている。

一方、10月の機械受注額(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、前月増加の反動のほか、設備投資繰延べの動きを映じて-30.3%と大幅な減少を示した。業種別にみると、製造業向けでは、自動車向けが著増したものの繊維、石油、鉄鋼、機械向け等を中心に前月(-9.3%)に引き続き減少(-24.8%)、また非製造業向けも、前月著

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	49年			49年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
民需	2,236	3,418	3,835	3,575	3,839	2,646
	(-50.8)	(52.8)	(12.2)	(-12.7)	(7.4)	(-31.1)
同(船舶を除く)	2,018	3,004	3,638	3,449	3,676	2,561
	(-49.4)	(48.8)	(21.1)	(-8.9)	(6.6)	(-30.3)
製造業	1,128	1,690	2,127	2,121	1,923	1,447
	(-57.6)	(49.8)	(25.9)	(-9.3)	(-9.3)	(-24.8)
非製造業	1,119	1,664	1,723	1,513	1,893	1,219
	(-41.9)	(48.7)	(3.6)	(-14.3)	(25.1)	(-35.6)
同(船舶を除く)	903	1,297	1,540	1,346	1,773	1,150
	(-33.6)	(43.6)	(18.8)	(-10.3)	(31.7)	(-35.1)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

増をみた電力向けの落込みを中心に大幅減少(−35.1%)となった。

この間、官公庁向けは、前月大幅増加(+29.9%)のあと、−0.5%とほぼ横ばいとなった。

10月の建設工事受注額(民需、速報、季節調整済み、前月比)は、−14.3%とかなり減少した。これは、前月が決算対策上の繰上げ計上もあってかなり増加(+9.6%)したことの反動による面もあり、ここにきて受注が急速に落ち込んだとはみられないが、このところ発注側の支払条件が悪化しているため引合いはあっても成約に至らないケースが増加している模様である。

この間、日本銀行「主要企業短期経済観測」(11月調査)によれば、49年度設備投資計画(製造業、工事ベース)は、前年度比+27.9%と前回調査時(8月、+26.7%)に比べ若干の増額修正となったが、数量ベースでは同−4.6%の減少と、前回調査(−3.8%)に比べ若干の下方修正となっている。業種別にみると、繊維、電気機械、窯業等は引き続き低い伸びとなっているのに対し、鉄鋼、化学等は高い伸びを示している。

#### ◇小売商況は伸び悩み

10月の全国百貨店売上高(通産省調べ、速報、季節調整済み、前月比)は、前月好伸(+5.7%)のあと−7.6%と大幅減少となった。これは、食料品、公共料金を中心とした消費者物価の高騰、所定外労働時間の減少などによる賃金所得の伸び悩みに加え、不況感の浸透に伴う所得の先行き不安などの高まりもあって、消費者の購買態度が一段と慎重化しているためとみられる。

一方、10月の新車登録台数(乗用車、自販連調べ、前年同月比)は−5.7%とこのところ落込み幅は縮小傾向(8月−24.8%、9月−8.9%)をたどっている。

#### ◇商品市況は一部で下げ止まり

11月の商品市況をみると、非鉄、紙が続落、石油、セメントは値上げの交渉難航ないし浸透未了から保合いを続けたが、一方天然糸が続伸し、化学品も前月のメーカー出し値引上げの浸透から上

伸したほか、鉄鋼、木材も下げ止まりとなった。

このような市況の動きとなったのは、実需にはさしたる動意がうかがわれないものの、①ほぼ全業種にわたって減産が強化され、供給が一段と減少していることが主因であるが、加えて、②流通在庫調整は全体としてはなお続いているものの、一部には補充買いの動きがみられた(条鋼類、天然糸、木材)こと、③天然糸の続伸については不況カルテルの申請(綿糸、そ毛糸)が市場ではやされた点も見のがせない。

鉄鋼……11月の鋼材市況をみると、前月軒並み急落したあと、鋼板類は月中を通じ保合いとなったほか、条鋼類も中旬以降下げ止まりないし小反発となった。

これは、前月の下げ幅が大きただけにさすがに先安感が薄れ、特約店筋の売り急ぎが影を潜めたことが主因。また条鋼類については、平電炉メーカーが大幅減産(30~40%)を背景に11月積み出し分の建値を市中相場より高めに設定したことも響いたとみられている。

この間くず鉄については、先月暴落のあと月初高炉メーカーの手当買いから小戻したものの中旬以降再び地合い軟調に推移。

繊維……11月の繊維市況をみると、天然糸が前月反騰に転じたあと軒並み続騰したほか、前月続落した合繊も下げ渋り商状となった。

天然糸の続騰は流通在庫調整がかなり進捗していたうえ、①減産強化によりメーカー在庫が減少傾向に転じたこと、②不況カルテル申請が実現したこと(綿糸、そ毛糸)などから縮小均衡ながら需給バランス改善のめどが立ちつつあるためである。

合繊が下げ渋ったのは、大手メーカー中心に減産体制に腰が入ってきたこと、織物市況に若干回復の兆しがみられることなどが主因であるが、こうした天然糸の続騰も響いている。

非鉄……10月の非鉄金属市況をみると、鉛は保合いながら、銅は引き続き小幅軟化を示し、亜鉛、アルミも月初軟化のあと弱含みに推移するな

ど、総じて軟調商状を呈した。

銅、亜鉛、アルミの軟調は、①LME相場が依然軟調裡に推移し(銅、亜鉛)、輸出環境も一段と悪化していること、②ユーザー、問屋とも実需の不振に加え、先安感が根強いことや資金繰りのひっ迫もあって買い意欲が乏しく当用買いに徹していること、が主因。もっとも、鉛はLME相場が底堅い動きを続けているうえ、ユーザー・流通段階の在庫薄もあって、需要低調ながらも引き続き保合い。

こうした状況から山元筋では、ここにきて本格的な生産調整を実施ないし検討する動きが広まっている(銅、亜鉛、アルミ)。

石油製品……11月の石油製品市況は、ガソリン値上げが11月中旬までにはほぼ一応の浸透をみたものの、その他の油種については総じて値上げ浸透難による保合い商状が持続した。

これは、全油種にわたって供給過剩状態が持続している中であって、ガソリンはその他の油種に比べ販売系統の系列化が進んでおり、需要家も個人をはじめきわめて小口のものが多いなど値上げが浸透しやすいのに対し、その他の油種にあっては大口需要家のウエイトが高く、業況悪化のりから各需要家ともきわめて強い抵抗をみせているため。

セメント……11月のセメント市況は引き続き保合いで推移し、7月に打ち出された建値の引上げは依然7～8割方の浸透にとどまっている。

需給環境をみると、10月の生産はメーカー筋の減産努力を映じて前年比14.7%減と大幅に低下(9月同8.7%減)、このため10月末の在庫は386万トンとようやく減少に転じた(9月末408万トン)。もっとも需要面では、輸出がメーカー側の積極姿勢を映じて急増(10月前年の5.3倍)してはいるが総出荷に占めるウエイトはまだ僅少であるうえ、肝心の内需が10月に前年比13.0%減(メーカーの国内出荷)のあと、11月入り後も15日までで同10.7%減(同)と不振を続けていることから、市中での荷余り感は依然強い。

木材……前月値下がりした内地材が、月初来下げ渋ったあと下旬にかけては強保合いとなり一部小反発を示す品種もみられるに至ったほか、これまで値下がり続けてきた外材も、中旬以降、弱含みながらも保合いに転ずるなど、総じて下げ止まり商状となった。これは、①需要面で、住宅建設等実需は依然不振を続けているものの、問屋等流通段階においては、これまで在庫圧縮を進めてきた結果、ひのき材等一部品種には、ここにきて手元品薄となったため在庫補充買いの動きがかなりみられはじめたこと、一方②供給面でも、内地材では産地製材業者が採算悪化を背景に減産・出荷抑制を一段と強化しているうえ、外材についても、夏場以降の商社筋の輸入削減努力(南洋材、北洋材、米材)の効果顕現に加え季節的要因(南洋材産地の雨期入り)もあって、11月に入って入着がかなり減少しはじめたこと、などの事情から需給がやや引き締まりに転じたためである。

化学……合成樹脂は、主要汎用樹脂のメーカー出し値がすでに10月に引き上げられていたが、11月に入って市中でもようやく新値の商いがみられるに至り、市中相場も上伸をみた。もっとも、末端実需の低迷や各段階における在庫調整意欲の高まりを映じて、プラスチック加工メーカー等ユーザー筋の購入態度は一段と慎重化しているため、需給の引き緩み傾向が強まっている。

品目別にみると、塩ビは官公需、民間住宅投資の落込みを主因とした硬質パイプ、電線向け出荷の減退が著しく、中低圧ポリエチレンも工業用需要の落込みが響いてかなりの出荷減をみているほか、高圧ポリエチレン(主として軟質フィルム向け)、ポリプロピレン(主として日用雑貨向け)等も、塩ビほどではないが11月入り後需要減をみている。このため、各樹脂メーカーでは減産を一段と強化しているものの、需要の落込みが大きいいため在庫が増大し、荷もたれ感がかなり強まっている。

一方基礎薬品類の動向をみると、硫酸はさきのメーカー出し値引上げが浸透して上伸し、またこ

れまで値上げ交渉が難航していたカセイソーダも、大口ユーザーである紙・パルプ各社がここに来て値上げを受け入れたため11月入りとともにメーカー出し値が引き上げられ、これを映じて市中相場も上伸した。

需給地合いをみると、硫酸は紙・パルプ、合繊向けの減退にもかかわらず、肥料向けが好調であることや一部非鉄金属業界の減産に伴う供給減もあって総じてなお堅調に推移しており、またカセイソーダも塩ビの減産に伴う塩素の減産要請に藉口したかたちで供給減となっている(工業塩を電解してカセイソーダと塩素を製造)ため、需給の引き緩み傾向に歯止めがかけられている。

紙……白板紙が大幅続落となったほか、上質紙、アート・コート紙、段ボール原紙(とくにJライナー)も前月に続き下落するなど全面安商状

となった。

これは、各品種とも減産を実施(上質紙15%、アート・コート紙、板紙各30~40%)しているものの、需要の落込みが大きく在庫調整が遅々として進捗していないためである。上質紙については減産体制入りが遅れた(10月)うえ、商業印刷向けが大きく落ち込んでいるアート・コート紙等他品種からの生産転換もあって供給が絞り切れていない。また大幅減産を続けている板紙については、Jライナー、白板紙の需要減が著しく、在庫は累増(10月、前年比3.5倍)し、このため換金売りも広範化しているうえ、これまで比較的堅調だったKライナーも中国向け輸出の先細りが必至となったことから弱含みに転じるなど、全般的に相場の下落が続いている。

砂糖……国内相場(現物)は、上白糖が行政指導

### 卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウエイト	49年		49年			49年10月			49年11月	
		4~6月平均	7~9月平均	8月	9月	10月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
総平均	100.0	3.4	2.9	1.0	0.1	0.5	0.4	0.1	0.2	0.4	0
食料品	13.4	2.4	4.7	1.7	2.4	3.8	1.6	0.9	1.1	1.2	0.1
非食料農林産物	2.4	7.8	0.8	2.7	2.7	2.0	1.1	0.6	0.4	0.2	1.7
繊維製品	7.8	6.3	7.3	3.2	2.3	1.3	0.5	0.3	0.3	0.6	0.3
製材・木製品	3.8	7.6	3.5	0.9	1.9	2.2	0.6	0.6	1.4	0.2	0.1
パルプ・紙・同製品	2.8	0.4	1.8	0.7	0.2	0.5	0.1	0.3	0.7	0.3	0.1
金属素材	1.9	12.7	0.8	5.1	2.2	10.2	5.6	5.7	0.9	0.9	0.5
鉄鋼	9.4	4.4	13.3	2.8	0.1	2.6	0.8	1.5	0.7	0.9	0.3
非鉄金属	4.2	4.6	14.7	0.8	8.5	2.6	0.8	1.2	0.9	0.2	0.2
金属製品	3.8	4.0	1.2	0	0.2	0.9	0.9	0	0.3	0.7	0.1
電気機器	9.0	3.2	1.9	0.3	0.6	0.1	0.1	0	0.1	0.9	0.5
輸送用機器	6.8	2.3	1.8	0.6	0.2	0.1	0	0	0.2	0.2	0
一般・精密機器	10.8	3.9	2.2	0.5	0.5	0.5	0.3	0	0.3	0.1	0.1
化学製品	8.8	0.2	3.9	1.6	1.0	2.3	2.0	0.1	0	0.2	0
石油・石炭・同製品	4.6	30.3	10.2	3.0	0.4	4.2	1.7	1.2	1.9	0.6	0.1
窯業製品	3.1	2.4	3.2	2.2	2.4	0.2	0.1	0.2	0.1	0	0
雑品目	7.6	4.4	8.3	0.6	0.7	1.6	1.0	0.8	0.3	0.8	0.1
工業製品	85.5	2.4	1.8	0.7	0.1	0.5	0.5	0.1	0.1	0.2	0.1
大企業性製品	63.3	3.7	2.6	1.0	0.1	0.8	0.6	0.1	0.3	0.3	0.1
中小企業性製品	20.1	1.7	1.4	0.5	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4	0.1	0.1
非工業製品	14.5	7.9	8.9	2.7	0.7	0.6	0.4	0.7	0.9	1.2	0.3

(注) 日本銀行調べ。

により小幅反落となったものの、グラニュー糖等その他の品種は小幅上伸するなど引き続き堅調に推移した。

これは、上白糖については、メーカー出し値が行政指導により規制されている(kg当り大袋253円、小袋257円)うえ、流通段階でも自販販売が行われているものの、その他品種については、メーカー各社が出し値を引き上げるとともに、安値原糖の食い延ばしのため小幅減産を続けているためである。

(卸売物価——引き続き上昇)

卸売物価は、10月に前月比+0.5%の上昇となったあと、11月に入ってから、上旬は食料品の統騰を主因に前旬比+0.4%と引き続き上昇したが、中旬は保合いとなった(中旬の前年同月比+25.1%)。

品目別にみると、上旬は食料品が米、牛肉を中心に上昇したほか、電気機器、雑品目、繊維製品等が小幅上昇、一方、鉄鋼、パルプ・紙・同製品が実需不振から統落、中旬には、電気機器、繊維製品が統騰した反面、非食料農林産物、金属素材が反落し、鉄鋼が小幅統落した。

(工業製品生産者物価——引き続き上昇)

10月の工業製品生産者物価は前月比+0.5%の上昇となった。

品目別にみると、石油・石炭製品、化学製品等がかなりの上昇となったほか、食料品、雑品目が上昇した反面、合織、特殊鋼鋼材・その他、製材・木製品が統落した。

(消費者物価——季節商品を除くと根強い騰勢)

11月の消費者物価(東京都

区部、速報)は、タクシー代の値上げ、ガソリン価格の上昇のほか、家賃も値上がりしたが、野菜、果物の大幅下落を映じて総合では前月比+0.5%(前月同+2.2%)と小幅の上昇にとどまった(前年同月比+24.4%)。しかしながら、季節商品を除く総合では前月比+1.0%と根強い騰勢を示した。

10月の全国消費者物価は、医療費、国鉄運賃の値上げから雑費が大幅に上昇したほか、消費者米価の引上げにより食料がかなりの上昇となったため、総合で前月比+2.3%(前年同月比+26.2%)と大幅に上昇した。また季節商品を除く総合でも、前月比+3.4%(前年同月比+26.3%)の大幅上昇をみた。

(輸出物価——統落、輸入物価——反発)

10月の輸出物価は、化学製品が肥料の高騰を主因にかなりの上昇をみたものの、繊維品、金属・同製品、雑品目の統落が響いて前月比-0.1%(前月同-0.4%)と引き続き下落した。一方輸入物価

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

	ウエイト	49年			49年			最近月の前年同月比
		4~6月平均	7~9月平均	9月	10月	11月		
消費者物価	総合(季節商品を除く)	100.0	5.0	3.5	1.8	2.2	* 0.5	* 24.4
	食料	91.3	5.0	3.1	1.6	3.6	1.0	24.1
	居住	40.3	3.4	4.1	2.2	1.4	* 0.1	* 27.8
	光熱	11.8	5.1	1.4	1.1	1.2	0.6	23.1
	被服	3.7	4.4	16.4	17.5	- 0.1	0	37.6
	雑費	12.4	8.1	0.2	0.9	1.5	- 0.1	14.6
	特殊分類	31.8	5.9	3.6	0.3	4.4	1.3	23.7
	農水畜産物	16.6	1.7	5.2	4.5	0.3	...	30.5
	工業製品	43.6	5.7	2.0	0.6	1.2	...	25.0
	うち大企業製品	19.8	4.9	3.5	0.6	1.6	...	28.3
中小企業製品	23.8	6.4	1.0	0.6	0.9	...	23.0	
サービス	37.0	5.5	3.0	2.3	4.1	...	22.2	
全国	総合	100.0	4.7	3.8	1.6	2.3	...	26.2
	(季節商品を除く)	91.0	5.0	3.4	1.5	3.4	...	26.3
輸出入物価	輸出		4.8	7.2	- 0.4	- 0.1	...	33.3
	輸入		10.9	7.5	- 0.5	0.8	...	69.3
	交易条件		- 6.0	- 0.3	0.1	- 1.0	...	- 21.3

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局調べ、輸出入物価は日本銀行調べ。

2. \* 印は速報。

は、木材・同製品、繊維品が大幅統落したものの、食料品が海外市況高から大幅上伸したほか、雑品目も飼料、りん鉱石の上昇を主因にかなりの上昇となったため、前月比+0.8%（前月同-0.5%）と反発した。

この結果、10月の交易条件指数(72.6、45年=100)は前月比-1.0%と再び悪化(前月同+0.1%)。

#### ◇総合収支は黒字幅を拡大

10月の国際収支は、総合収支で354百万ドルの黒字となり、前月(黒字128百万ドル)に比べ黒字幅を拡大した。

これは、貿易収支の黒字が一段と増加した反面、貿易外収支の赤字幅が縮小したため経常収支が黒字幅を拡大したうえ、長期資本収支も先月に引き続きオイル・マネーの流入から黒字を続けたことによる。この間、短期資本収支はBCユーザンスの減少、船舶前受金の引落とし増加から流出超となった。

10月の貿易収支を季節調整後でみると、輸入は食料品、原油、非鉄金属鉱等を中心に前月比+2.8%と小幅増加を示したものの、輸出が船舶をはじめ、鉄鋼、弱電等が前月減少の反動もあって好伸したため、前月比+18.0%と大幅な伸びを示し、このため収支じりは924百万ドルと既往最高の黒字を記録した(前月230百万ドルの黒字)。

長期資本収支は、前月(126百万ドルの流入超)に引き続き95百万ドルの流入超となった。これは、本邦資本が円借款供与の集中、天然ガス開発関連の大口借款供与、さらには船舶輸出増大に伴う延払信用の供与増から前月(319百万ドルの流出超)を上回る流出超(380百万ドル)となったものの、外国資本もオイル・マネーの流入を主因に前月に続き大幅な流入超(475百万ドル)を示したため(前月同445百万ドル)。

一方短期資本収支は、BCユーザンスが輸入の着着きを映じ決済超過となったほか、船舶輸出増加に伴い、同前受金の引落としが進んだため、90百万ドルの流出超(前月流入超110百万ドル)となった。

金融勘定の動きをみると、為銀ポジションはユーロ・マネーがネット取入れ増となったものの、外銀借入れの返済、輸出手形の増加などから月中103百万ドル好転し、48年4月以来一年半ぶりの改善をみた。この結果、月末負債超過額は12,159百万ドルとなった(前年同月末負債超2,446百万ドル)。

この間、外貨準備は月中282百万ドル増加し、月末残高は13,451百万ドルとなった。

#### (輸出——大幅伸長)

10月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整後で前月比+18.0%(通関ベース同+15.9%)と前月(同-8.3%、通関ベース同-4.8%)減少のあと大幅な伸びを示した。原計数の前年同月比でも、+63.5%と伸び率は前月(同+42.7%)を大幅に上回った(通関ベースの邦貨表示額では同+83.6%、前月同+63.1%)。

品目別(通関ベース)にみると、船舶が前月からのずれ込みもあって著伸を示したほか、鉄鋼、弱電製品が好伸した一方、自動車が続く伸び悩んだ。

通関輸出額の前月比伸び率を数量と価格に分けてみると、輸出価格は繊維品が引き続き低下したものの、鉄鋼が騰勢を続けたほか、自動車が75年型車の船積み開始からかなりの上昇を示したため+2.9%と再び上昇となった(前月-1.7%)。一方、輸出数量(季節調整済み)は船舶が前月からのずれ込みもあって著伸したほか、鉄鋼も高い伸びを示し、またこれまで不調を続けてきた弱電製品も若干持ち直したため、自動車の伸び悩みもさして響かず+17.3%(前月-8.4%)と大幅に増加した。

地域別にみると、中近東向け(季節調整済み、前月比+26.1%)、共産圏向け(同+24.3%)が好調を続けたほか、米国向け(同+12.4%)も鉄鋼、弱電製品を中心に持ち直したが、東南アジア向け(同+2.6%)は繊維、化学等を中心に不振を続け、EC向け(同-2.8%)も当月は伸び悩みぎみ。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済



国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	49 年			49 年			48年10月
	1～3月	4～6月	7～9月	8 月	9 月	10 月	
経 常 収 支	△ 3,274	△ 2,377	△ 67	50	85	341	△ 256
貿 易 収 支	△ 1,835	△ 821	1,613	584	690	846	125
輸 出	10,104	13,484	14,696	4,933	4,672	5,361	3,278
輸 入	11,939	14,305	13,083	4,349	3,985	4,515	3,153
貿 易 外 収 支	△ 1,394	△ 1,418	△ 1,620	△ 518	△ 574	△ 488	△ 352
移 転 収 支	△ 45	△ 138	△ 60	△ 16	△ 31	△ 17	△ 29
長 期 資 本 収 支	△ 1,591	△ 1,045	△ 587	△ 283	126	95	△ 560
本 邦 資 本	△ 1,238	△ 890	△ 791	△ 179	△ 319	△ 380	△ 512
外 国 資 本	△ 353	△ 155	204	△ 104	445	475	△ 48
基 礎 的 収 支	△ 4,865 ( △ 4,236)	△ 3,422 ( △ 2,630)	△ 654 ( △ 1,374)	△ 233 ( △ 274)	211 ( △ 249)	436 ( 514)	△ 816 ( △ 726)
短 期 資 本 収 支	872	137	297	△ 80	110	△ 90	132
誤 差 脱 漏	△ 144	220	△ 238	△ 200	△ 193	8	△ 275
総 合 収 支	△ 4,137	△ 3,065	△ 595	△ 513	128	354	△ 959
金 融 勘 定	△ 4,137	△ 3,065	△ 595	△ 513	128	354	△ 959
外 貨 準 備 増 減	180	1,003	△ 260	△ 301	266	282	△ 746
そ の 他	△ 4,317	△ 4,068	△ 335	△ 212	△ 138	72	△ 213
外 貨 準 備 高	12,246	13,429	13,169	12,903	13,169	13,451	14,049
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 7,765	△ 11,896	△ 12,262	△ 12,122	△ 12,262	△ 12,159	△ 2,446

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
49年 1～3月	(+ 3,687 8.6)	(+ 4,089 25.8)	△ 402	(+ 3,759 9.0)	(+ 4,751 23.1)	(+ 3,014 18.4)	(+ 3,956 7.0)	(+ 5,671 29.0)
4～6 "	(+ 4,599 24.8)	(+ 4,609 12.7)	△ 10	(+ 4,695 24.9)	(+ 5,375 13.2)	(+ 3,362 11.6)	(+ 4,973 25.7)	(+ 6,131 8.1)
7～9 "	(+ 4,758 3.5)	(- 4,460 3.2)	298	(+ 4,853 3.4)	(- 5,295 1.5)	(+ 3,659 8.8)	(+ 5,312 6.8)	(- 5,629 8.2)
49年 7 月	(+ 4,856 1.1)	(+ 4,736 2.6)	120	(+ 4,983 1.8)	(+ 5,689 4.2)	(+ 3,766 7.9)	(- 5,154 3.0)	(+ 5,956 3.0)
8 "	(+ 4,914 1.2)	(- 4,371 7.7)	543	(- 4,911 1.5)	(- 5,200 8.6)	(+ 3,871 2.8)	(+ 5,683 10.3)	(- 5,516 7.4)
9 "	(- 4,505 8.3)	(- 4,275 2.2)	230	(- 4,671 4.8)	(- 5,011 3.6)	(- 3,339 13.7)	(- 5,100 10.3)	(- 5,414 1.8)
10 "	(+ 5,317 18.0)	(+ 4,393 2.8)	924	(+ 5,414 15.9)	(+ 5,232 4.4)	(+ 3,625 8.6)	(+ 5,581 9.4)	(- 5,201 3.9)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

み、前月比)は、10月に+8.6%と著増したあと、11月は-3.3%と減少した。品目別には、鉄鋼が引き続き高水準に推移したほか、一般機械がアジア向けプラント類の集中からやや持ち直した一方、繊維、電気機械は不調を続け、また肥料を除く化学品も頭打ちとなった。

(輸入—数量は引き続き減少傾向)

10月の輸入(国際収支ベース)は季節調整後で前月比+2.8%(通関ベース+4.4%)と前々月、前月(-2.2%、通関ベース-3.6%)と減少のあと小幅増加を示した。原計数の前年同月比でも+43.2%と前月(同+45.1%)に比べ若干伸び率を高めた(通関ベースの邦貨表示額では同+59.2%、前月同+65.1%)。

品目別(通関ベース)にみると、繊維原料(綿花、羊毛)、一般消費財が引き続き減少傾向をたどった反面、食料品をはじめ原油(1,689百万ドル、前月1,454百万ドル)、非鉄金属鉱等が前月減少の反動もあって増加した。

通関輸入額の前月比を数量と価格に分けてみると、輸入価格は木材、羊毛等が低下をしたものの、鉄鋼原材料(鉄鉱石、石炭)、砂糖等が上伸し、またこれまで軟調を続けてきた小麦、とうもろこしが反発したため、+5.4%とかなりの上昇をみた。一方輸入数量(季節調整済み)は砂糖、小麦等が先月減少の反動もあってかなりの伸びを示したものの、繊維原料(羊毛、綿花)が一段の落込みをみたため、-1.8%と依然減少傾向を持續し

### 通 関 輸 出 の 内 訳

(対前年同期(月)比増減(-)率・%)

	49 年				49 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	輸出額	9 月	10 月	輸出額
食 料 品	25.8(- 4.3)	12.0(- 9.8)	- 1.7(-11.6)	217	- 16.0( 5.4)	- 30.3(- 7.1)	73
魚 介 類	67.8(- 2.1)	16.4(-19.6)	- 7.9(-11.3)	135	- 20.1(- 1.1)	- 35.2(- 5.1)	46
繊 維・同 製 品	27.1( 11.3)	37.7( 9.2)	31.4( 0.4)	1,109	19.0(- 5.0)	25.5( 4.3)	362
合 繊 糸	29.9( 7.9)	49.9( 19.0)	61.8( 13.8)	181	37.4(-12.7)	22.8(- 7.5)	50
綿 織 物	16.1( 10.5)	43.3( 12.7)	26.4(-10.5)	59	15.7(- 1.9)	31.1( 15.1)	21
合 繊 織 物	33.1( 13.0)	40.5( 10.4)	28.7(- 0.8)	340	21.4(- 5.7)	38.5( 9.6)	122
化 学 製 品	45.4( 15.1)	77.2( 37.2)	125.1( 32.7)	1,239	124.7( 5.4)	114.8(- 6.4)	416
非 金 属 鉱 物 製 品	28.0( 5.2)	28.4( 16.1)	17.2(- 6.9)	181	8.9(-10.2)	24.2( 16.0)	63
金 属・同 製 品	56.3( 15.8)	99.1( 36.0)	120.8( 16.4)	3,828	104.0(- 2.9)	128.2( 23.2)	1,448
鉄	60.7( 14.6)	94.8( 30.5)	119.0( 19.1)	2,947	103.8(- 1.9)	133.2( 27.3)	1,162
機 械 機 器	31.8( 3.4)	51.0( 27.9)	35.1(- 5.4)	7,212	21.5(-15.1)	49.7( 25.9)	2,686
(船舶を除く)	34.6( 9.9)	41.6( 17.1)	37.8( 1.1)	5,916	29.7(- 5.2)	33.9( 5.9)	2,058
事 務 用 機 器	2.7(-18.6)	- 5.5( 4.9)	- 10.1( 1.2)	188	- 7.6( 4.6)	11.6(-24.8)	53
テ レ ビ	10.4( 5.8)	28.0( 17.9)	17.9(-10.7)	203	8.2(-17.8)	28.9( 25.6)	68
ラ ジ オ	15.6(- 0.1)	16.6( 12.0)	10.0(- 8.4)	378	1.2(- 4.4)	9.9( 8.1)	131
自 動 車	35.9( 13.3)	53.5( 23.0)	55.7( 8.7)	1,378	54.1(-17.3)	36.1(- 9.0)	451
二 輪 自 動 車	68.6( 25.1)	59.4( 4.0)	73.2( 36.7)	382	52.2(- 5.5)	92.1( 8.6)	137
船 舶	20.1(-13.3)	100.5( 93.8)	23.8(-30.4)	1,296	- 9.2(-42.3)	144.6( 186.1)	628
光 学 機 器	49.5( 20.4)	39.9( 1.7)	37.7( 5.8)	359	28.9( 3.0)	24.0(- 1.3)	117
テ レ コ ー ダ ー	4.7( 1.9)	- 2.0( 4.7)	- 7.0(- 9.8)	196	- 15.4(- 9.9)	- 9.0( 4.5)	68
そ の 他	32.1( 13.8)	51.5( 10.4)	51.4( 11.0)	1,191	51.1( 6.5)	55.1( 7.7)	421
合 計	36.5( 9.0)	59.1( 24.9)	55.5( 3.4)	14,973	43.2(- 4.8)	63.9( 15.9)	5,469
(船舶を除く)	38.5( 12.1)	55.1( 19.2)	59.3( 8.3)	13,677	50.2(- 4.5)	57.1( 7.9)	4,840

(注) カッコ内は季節調整済み前期(月)比(%)。

## 通 関 輸 入 の 内 訳

(対前年同期(月)比増減(-)率・%)

	49 年				49 年		
	1～3月	4～6月	7～9月	輸入額	9 月	10 月	輸入額
食 料 品	68.6(- 0.4)	45.4( 15.6)	20.0(- 7.3)	1,870	12.2(-13.2)	23.6( 22.6)	751
肉 類	32.8(- 3.9)	46.0(-34.2)	63.3(-31.3)	91	62.0(- 2.8)	41.8( 39.4)	47
魚 介 類	54.8(- 6.6)	5.8(- 2.0)	11.3(- 6.2)	236	13.1( 7.6)	4.6( 17.2)	108
小 麦	101.1( 24.0)	119.1( 36.7)	62.6(-12.9)	265	46.6(-32.8)	63.2( 36.4)	104
とうもろこし	102.5( 5.2)	104.9( 15.6)	36.9(-13.1)	194	34.6( 6.9)	21.6(- 3.3)	74
砂 糖	83.2(- 0.4)	120.4( 49.1)	156.2( 37.6)	308	115.7(-18.7)	248.1( 144.3)	154
原 燃 料	107.8( 41.3)	102.1( 15.8)	92.4( 4.3)	10,073	79.6(- 3.7)	78.6( 2.8)	3,447
羊 毛	2.2(-18.0)	59.4(-52.8)	61.0(- 3.0)	108	65.0(-17.9)	71.4(-12.1)	24
綿 花	33.9( 20.3)	44.6( 3.8)	86.7( 39.7)	278	77.9(- 6.9)	33.1(-30.4)	79
鉄 鉱 石	35.1( 21.8)	24.5(-13.2)	24.0( 11.9)	527	8.9(-12.4)	18.4( 3.2)	170
鉄 鋼 く ず	4.5(-24.8)	1.8( 26.7)	43.6( 60.9)	170	50.4( 11.6)	43.6( 5.6)	52
非 鉄 金 属 鉱 石	67.7( 30.9)	83.1( 14.8)	12.8(-29.3)	650	2.1(-25.4)	19.0( 32.7)	207
大 豆	65.6( 31.0)	5.5(- 8.2)	21.5(-27.0)	170	33.0(-18.3)	35.8( 59.5)	72
木 材	46.1(- 0.8)	12.8( 1.9)	13.4(- 2.0)	923	8.6( 2.0)	3.8(- 5.3)	308
石 炭	45.5( 14.7)	54.6( 15.0)	146.3( 70.3)	838	173.8( 11.4)	157.0( 1.8)	353
原 油	232.9( 95.0)	274.2( 32.5)	226.6( 2.5)	4,924	200.0(- 3.2)	187.6( 7.3)	1,689
化 学 製 品	88.9( 10.3)	84.7( 13.7)	35.8(-14.8)	614	13.0(-15.5)	1.2( 0.6)	218
機 械 機 器	51.3( 0.2)	58.9( 14.3)	18.2(- 5.1)	1,099	18.1( 12.6)	7.5(- 1.0)	373
航 空 機	119.3( - )	652.4( - )	18.7( - )	78	4.5( - )	46.8( - )	13
そ の 他	73.3( 4.6)	37.3( 1.9)	1.2(-17.3)	1,776	5.9( 3.5)	15.4(- 5.4)	570
合 計	90.8( 23.1)	78.7( 13.1)	55.1(- 1.4)	15,472	45.3(- 3.6)	42.0( 4.4)	5,358
工 業 用 原 料	101.6( 33.1)	93.3( 15.2)	75.6( 0.7)	11,564	63.9(- 1.6)	57.3( 2.3)	3,925
消 費 財	76.3( 8.2)	43.6( 7.1)	12.9(- 9.6)	2,778	4.5(- 7.6)	14.5( 12.2)	1,070
一 般 消 費 財	92.0( 9.3)	55.9( 3.9)	8.5(-13.6)	683	0.6(- 8.8)	8.8(- 5.1)	218
資 本 財	52.6( 5.8)	63.3( 15.9)	18.4(- 8.2)	1,018	20.2( 17.2)	6.4(-11.3)	340

(注) カッコ内は季節調整済み前期(月)比(%)。

た。なお、原油(23.5百万kl、季節調整済み前月比+1.4%、原計数の前年同月比-13.1%)は若干持ち直したものの、引き続き低水準。

地域別にみると、中近東(季節調整済み前月比+18.7%)が原油の入着増から持ち直したほか、米国(同+6.0%)が農産物(小麦、大豆)、石炭等を中心に引き続き増加を示した一方、東南アジア(同-8.8%)が繊維品、非鉄金属鉱石を中心に不振を続けた。

11月の輸入承認・届出額(季節調整済み、前月比)は、10月-3.9%と減少したあと+9.2%の増加となった。品目別には、木材、機械類等が引き続き減少した反面、鉄鋼原材料は依然増加を続け、また繊維原料がやや持ち直した。

10月の輸入素原材料在庫率指数(45年=100)は、同消費(季節調整後、前月比)が-2.3%と減少した反面、同在庫が+2.2と増加したため、121.9と前月比5.4ポイントの上昇となった。